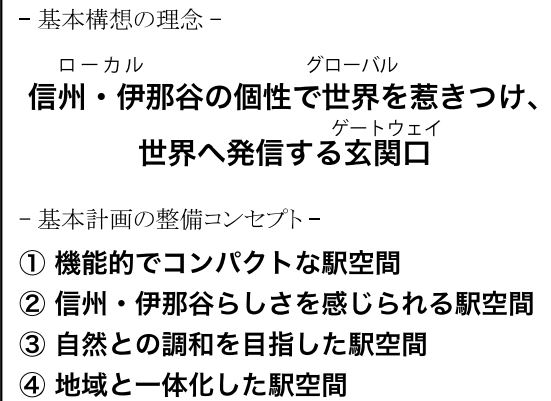
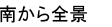
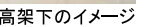


- ・敷地のもつ地形・履歴を活かした空間（ランドスケープ）が駅と風景をつなぎ、地域の暮らしをつなぎ、人々をつなぎ、現在と未来をつなぐ。
- ・時間の蓄積によって生まれた段丘地形や、周辺施設のスケール感、周辺地域とつながる動線などを広場に取り込むことによって、巨大なリニア高架構造物によって分断される地域をつなぎ直し、新たな来訪者と地域をつなぐ場所をつくりだす。



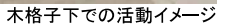
【高架下と南北が一体となった広場と交通施設配置】

- ・高架下と一体にフラットな広場空間とし、各交通施設へのバリアフリーなアクセスが可能な空間構成とする
- ・高架下にインフォメーションや待合施設をおき、北口交通広場に路線バス、高速バスなどを集約するなど、来訪者にとって分かりやすい交通施設配置
- ・南口には地域の日常利用に対応した乗降、駐車スペースを設けるなど、地域住民にとっても使いやすい交通施設配置



【県産材による木格子の大屋根と市民活動】

- ・ 信州・伊那谷の森林資源を活かし、日本の伝統技術を活かした大屋根が森のように南北に展開し、長野県駅のシンボルとなる
- ・ 林業サイクルと連携し、持続的な更新を可能とする循環型の施設とする
- ・ 天候バリアフリーで快適な広場空間をつくり、人形劇など市民活動の舞台となる
- ・ 駅から出た南口は伊那山地に眺望を開き、伊那山地や里山の風景を望む



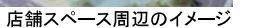
【地域らしさを感じさせるランドスケープ】

- ・段丘地形を活かした空間と、周辺をつなぐフットパスにより、敷地の持つ地形、履歴を活かしたランドスケープとする
- ・国内でも有数の多様な自然を感じさせる植生や、石積みなど自然素材を使い、環境と調和したグリーンインフラとして整備する
- ・木材や再生可能エネルギーなど、地域資源の循環によるゼロエミッションの駅を目指す
- ・調整池は多様な生き物が集まり四季を感じられるビオトープとする



【来訪者だけでなく市民の居場所となる施設、広場】

- ・大屋根や芝生広場、水盤など、伊那谷の自然と調和しながら、様々なイベントやコミュニティ活動など地域住民が活用できる広場とする
- ・高架下に店舗やライブラリーなどを設け、学生など地域住民の居場所とする
- ・施設を分棟配置とすることで、周辺と調和した施設規模にするとともに、個々の施設の更新や民間事業者との連携をやすくし、持続可能な施設とする
- ・現存する建物や樹木などの一部を遺し、調和させて、地域の暮らしの履歴を感じられる場とする
- ・防災備蓄倉庫を備え、高架下や大屋根など一時避難場所として機能する



1. 機能的でコンパクトな駅空間

基本的な考え方(自動車)

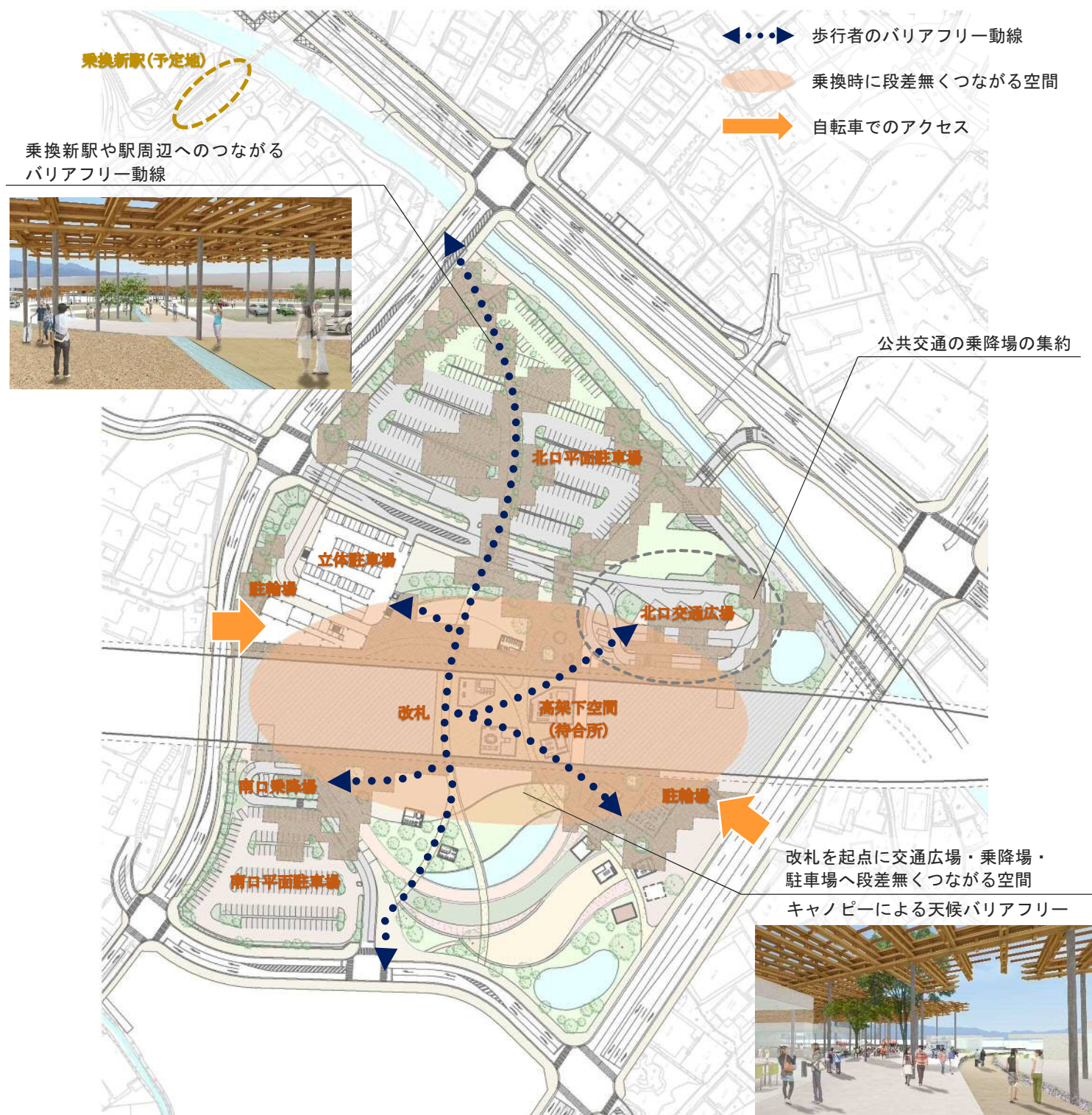
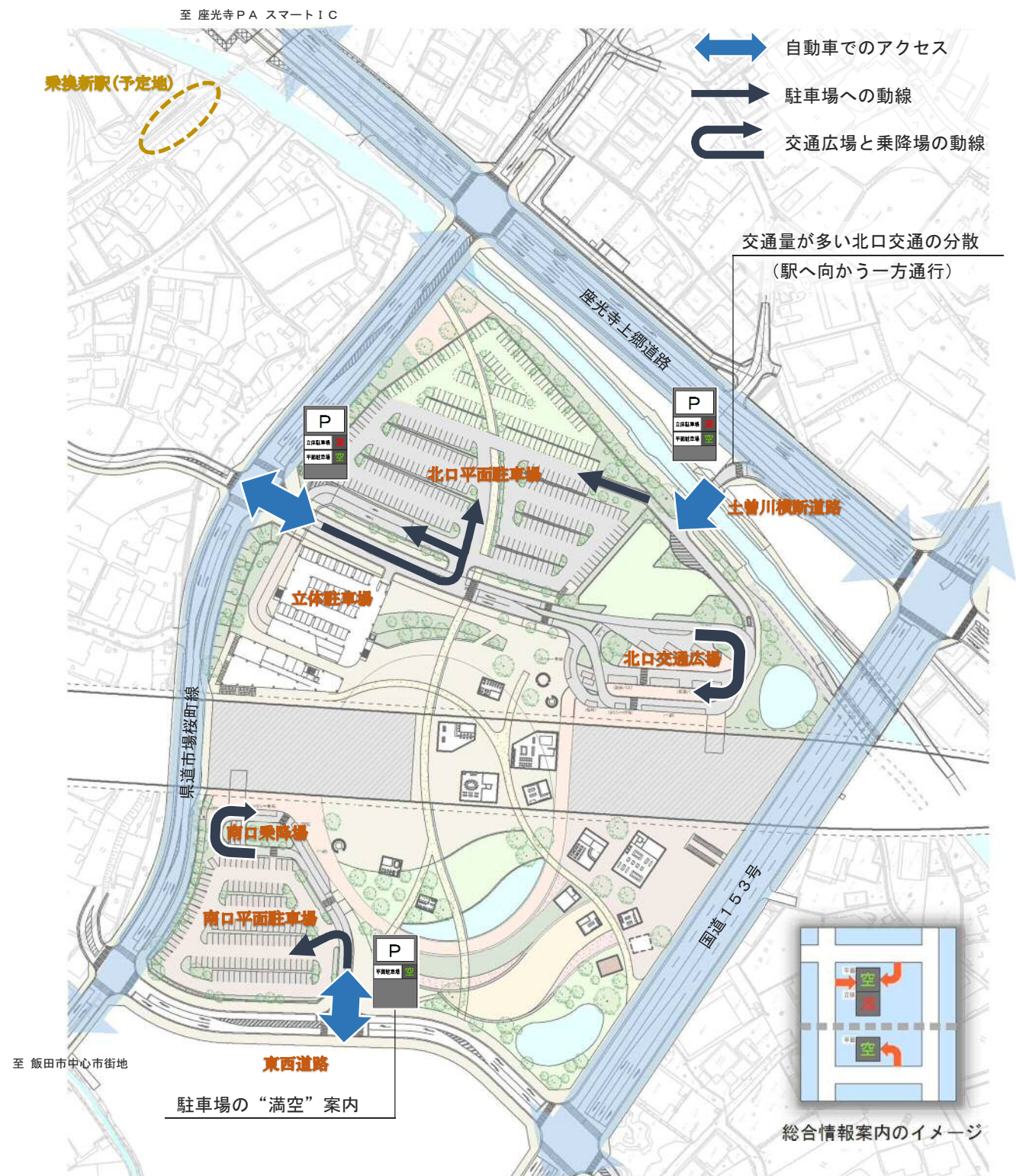
- ・ 交通量が多い周辺道路への影響を考慮し、交通の分散化（北口）と区画道路への集約（南口）により、周辺交通の円滑化を図ります。
 - ▶ 周辺道路の交通量が多い北口は、土曾川横断道路の整備により交通を分散させます。
 - ▶ 東西道路（区画道路）が整備される南口は、出入口を交通量が少ない東西道路に集約します。
 - ▶ 迂回せずに到着できるよう、駐車場へのアクセス・満空情報を案内します。
- ・ 広域へアクセスしやすい北口に交通広場、周辺へアクセスしやすい南口に日常利用に対応した乗降場を設けます。
- ・ 交通広場と乗降場は、コンパクトで停車・発車がしやすい右回りのロータリー式とします。
- ・ 駐車場へは左折入場とし、対向交通との交錯防止を図ると共に、場内道路の円滑化を図ります。

基本的な考え方(歩行者)

- ・ 訪れる全ての人にとって、わかりやすく、乗換えしやすい駅空間とします。
 - ▶ インフォメーションや待合施設を備えた高架下空間を中心に、各施設を見渡せ、段差無くつながる空間構成とし、キャノピーを設けることで雨に濡れずに移動できるようにします。〈市民WS・障害者団体ヒアリングを反映〉
 - ▶ 目的の乗場が判断しやすくなるよう、公共交通の乗降場を北口交通広場に集約します。〈交通事業者ヒアリングを反映〉
- ・ バリアフリーに対応したフットパスを設け、駅周辺と歩いてつながる動線を確保します。

基本的な考え方(自転車)

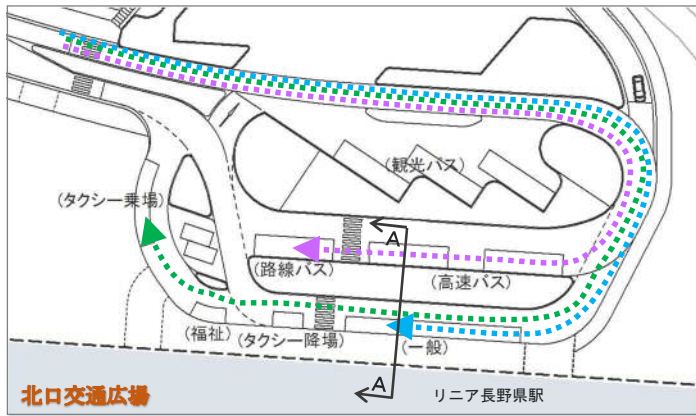
- ・ 自転車は、迂回せずにアクセスできるよう、東西両側に駐輪場を設けます。



1. 機能的でコンパクトな駅空間

基本的な考え方(交通広場 及び 乗降場)

- 交通広場は、交通機能ごとに車両動線を分離し、乗降場における各種交通の交錯を防ぎます。
- 公共交通の乗降場は、交通事業者の意見を踏まえ、以下の台数を確保します。
 - 高速バス：2台（北口）、観光バス：3台（北口）、路線バス：1台（北口）
 - タクシー：2台（北口及び南口）
- 一般車の乗降場は、北口（福祉バース含め5台）及び南口（福祉バース含め4台）で確保します。
- 観光シーズンの交通集中時に対応できる多目的空間を隣接地に確保します。

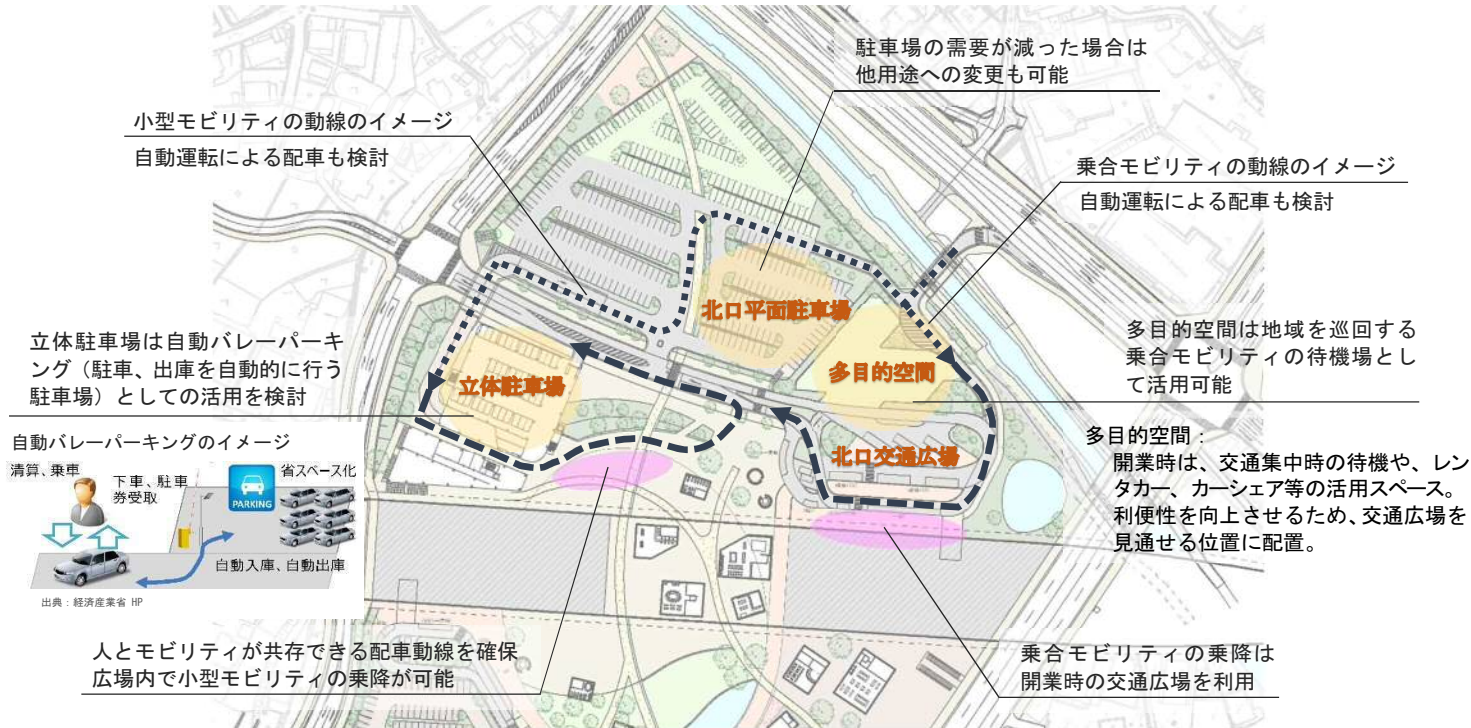


- 家族や荷物を持った旅行者が、並んで歩ける十分なスペースを確保します。



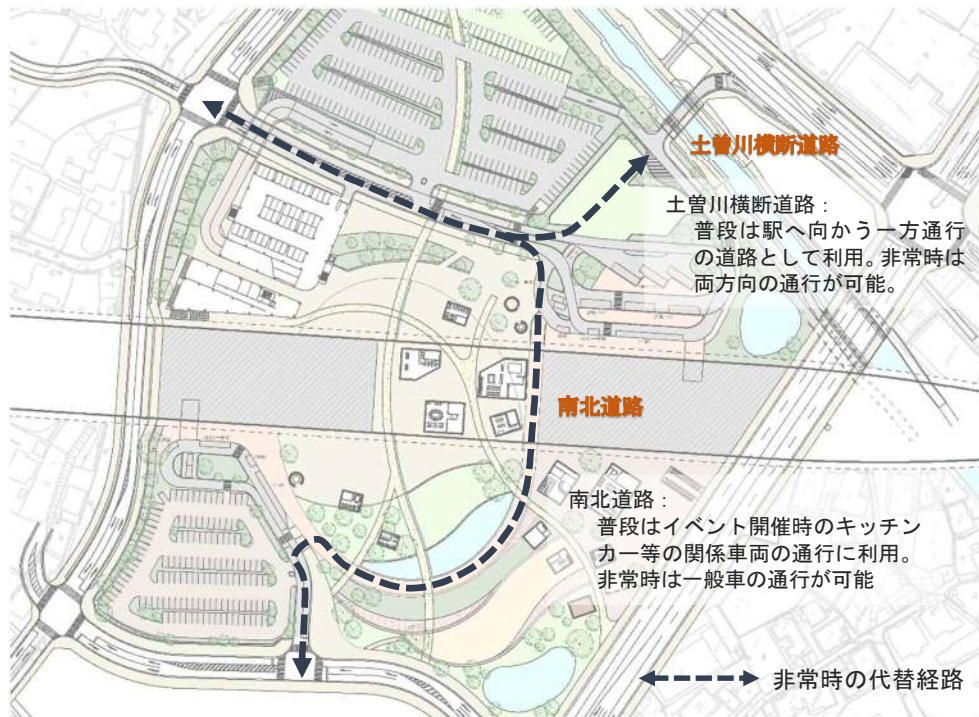
将来への可変性

- リニア開業後の交通手段や需要の変化に対応できる、可変性を備えた計画とします。
 - 新たに必要となる自動運転車等の待機場や充電スタンドなどは、需要の変化に応じて乗降場に近い立体駐車場や多目的空間が活用できます。
 - 乗合モビリティの乗降場は、乗降スペースが確保された交通広場を活用できます。
 - 広場内に人とモビリティが共存できる配車動線を確保することで、立体駐車場と連携し、短時間で配車・乗車が行える新たな送迎ゾーンとして活用できます。



道路空間の代替機能

- 移動経路が絶たれた場合や、広場内で緊急の対応が必要な場合は、南北道路や土曾川横断道路の活用により、周辺道路への移動経路や、緊急車両が近くまで乗入れられる経路を確保します。
- 南北道路は、交流広場を活用したイベントの開催時には、キッチンカー等の関係車両の通路としての活用も可能となります。



自動運転による人とモビリティの共存



パーソナルモビリティ・小型モビリティの充実



2. 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

■リニア駅のシンボルとなる大屋根

- 木製の大屋根が「森」のように南北に広がり、他にはないリニア長野駅のシンボルとします。
- 長野県内各地の木材を用い、日本の伝統技術による工法を検討します。
- 日陰をつくり、天候バリアフリーに寄与する空間とします。
- キャノピーがさまざまな市民活動の場をつくります。



■魅力発信施設について

- 飯田や伊那谷、長野県全体の魅力を発信するとともに、地域住民に日常的に利用される店舗を目指します。
- 周辺と調和した施設規模とするため、大規模施設とせずに、小規模の施設が並ぶ計画とします。
- 施設を分棟配置とすることで、個々での建築の更新や民間事業者との連携を図りやすくし、持続可能かつ地域に根ざした場所とします。



店舗スペース周辺のイメージ

■高架下施設について

- 高架下はインフォメーションや待合いの機能を備え、伝統文化のディスプレイや、交流広場越しの飯田の風景がリニア駅利用者を最初に迎え入れる玄関口とします。
- 店舗やライブラリーなど、地域の学生などが集まることの出来る施設を置き、天候に左右されない「みんなの居場所」を創出します。



高架下のイメージ

■地域らしさを感じさせる空間

- 伊那谷らしい段丘地形を活かしたスケールづくりと空間構成。
- 南北の広場をつなぐフットパスが周辺へと広がり、駅と地域をつなぎます。
- 高低差のある地形や水を活かしたグリーンインフラとします。
- 周辺地域とスケールを合わせた分棟配置の施設群とします。
- 飯田の多様な自然を活かした植生（高木、草木類）を検討します。



集落景観（下栗の里） 出典：遠山郷観光協会
どんと焼きの風景 出典：飯田市
ブナ、アヤマキなどの雑木林 出典：飯田市
麻績の里付近の石積み 出典：長野県公式観光
段丘地形と棚田（よこね田んぼ） 出典：飯田市教育委員会
伊賀良を流れる新井川 出典：飯田市教育委員会
ミズヒキなどの草本類 出典：飯田市教育委員会

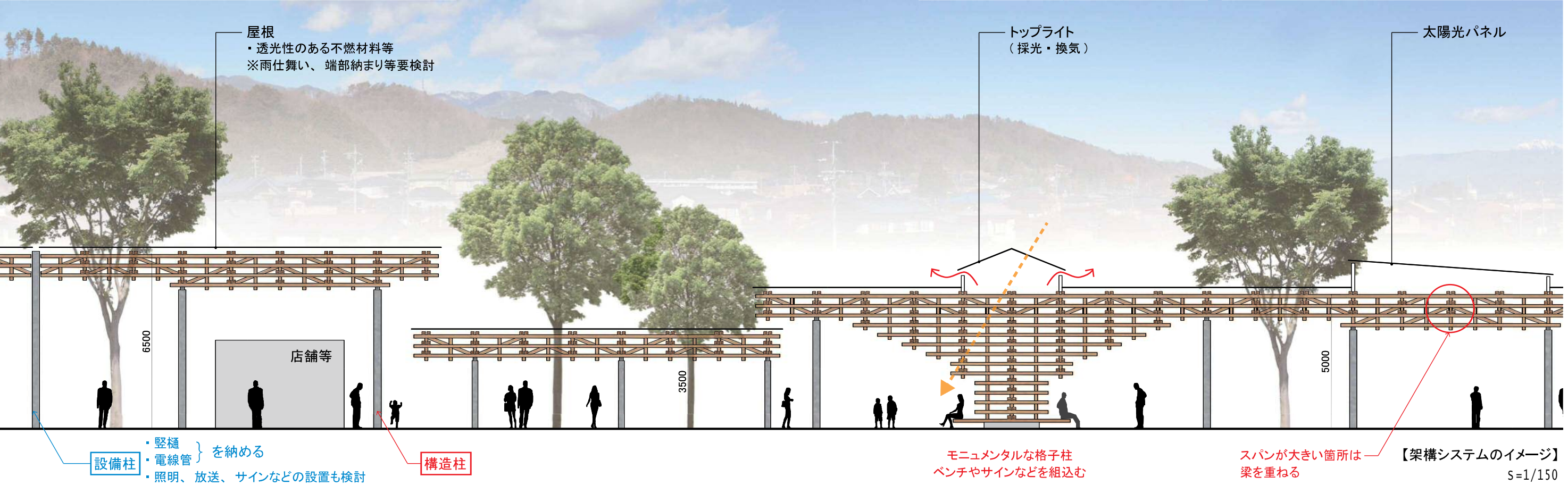
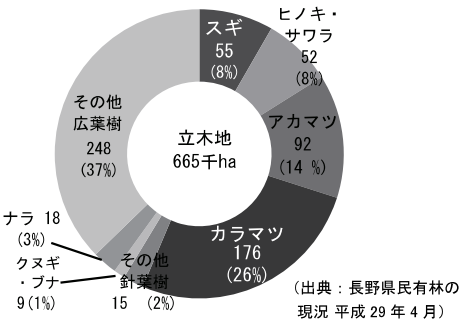


広場空間のイメージ

【材料・工法について】

- 地産の木材をできるだけ手を加えずに、（集成材等でなく）無垢の製材のまま利用します。
- 飯田市のみでなく、長野県全体から木材を集めることで、長野全体の森林文化を体現することを検討します。
- 地域林業の状況に合わせて、入手しやすい樹種を使用します。
- 特定の施工者に頼らない一般的な工法を採用することによって、多期にわたる段階的な建設や、将来的な拡張等にも柔軟に対応できる仕組みとします。

【長野県における民有林の樹種別面積】



2. 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間

基本的な考え方

- ・飯田・下伊那地域には、約 2,300 種の植物が分布していることから、地域の樹種、草花により、伊那谷の四季の景観を演出する植栽とします。
- ・北側については、アルプスの山並みを背景とする「里山・森」をテーマとした植栽演出とします。
- ・南側については、飯田・下伊那地域の方々に身近な「里地里山」をテーマとした植栽演出とします。

駅北側の植栽

- ◆北口広場は、里山・森のイメージで常緑・落葉の針葉樹等を中心に構成します。
- ◆外周の針葉樹並木と一体的に、円錐形状の針葉樹種など、遠景のアルプスの峰々との調和を演出します。



▲真鍋庭園(北海道帯広市)

出典：第一園芸



▲ハルニレ

出典：北海道立総合研究機構

駅南側の植栽

- ◆南口広場は、里地里山のイメージで常緑・落葉広葉樹等を中心に構成します。
- ◆丘陵部の雑木林、農地、果樹園など周辺地域の里地里山を表出する樹種選定を行い、「テラス」と一体的な植栽景観を演出します。



▲信州伊那梅園

出典：長野県宅地建物取引業協会 南支部



▲よこね田んぼ

出典：飯田市

外周植栽(北側)

- ・駅周辺の外郭を形成する植栽として、カラマツ、アカマツ等の郷土種から選定し、連続的な景観を演出します。



▲飯田市内の里山



出典：飯田市

フットパス植栽(アプローチ)

- ・駅とまちとを繋ぐフットパスの動線毎に、異なる樹種・草花によって個性的な景観を演出します。
- ・丘陵部の郷土種を選定し配置します。



▲リンゴ並木(飯田市)

出典：飯田市HP



▲飯田市内の花々

出典：飯田市



ポイント・シンボル植栽

- ・アイストップやランドマークなどの焦点となる位置については、ハナノキ、ヤマボウシ等の郷土種から存在感がある樹種を植栽します。



▲ハナノキ

出典：飯田市HP



▲ヤマボウシ

出典：緑化樹木ガイドブック

外周植栽(南側)

- ・駅周辺の南側の外郭を形成する植栽として、里地・里山の広葉樹等の郷土種から選定し、連続的な景観を演出します。



▲街路樹(札幌市)

出典：札幌市HP



▲りんご並木(飯田市)

出典：飯田市HP

テラス

- ・交流広場やコミュニティ広場等を中心としたエリアについては、飯田・下伊那地域の自然景観を壇状テラスのデザインとして、人と自然の共生空間を演出します。



▲ハルニレテラス(長野県軽井沢町)

出典：朝日新聞



▲菜の花・ムラサキハナナ・リナリア

出典：兵庫県 園芸公園協会

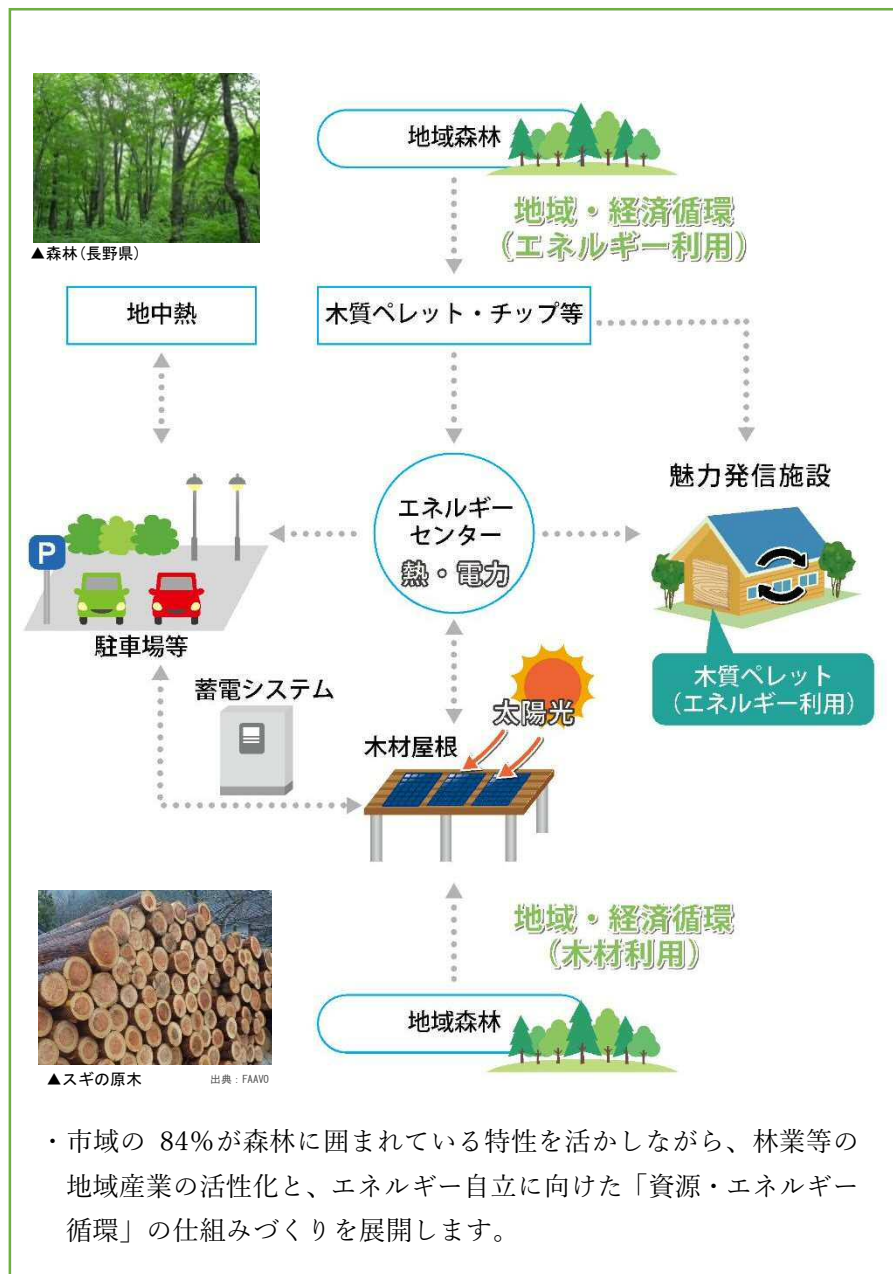
3. 自然との調和を目指した駅空間

基本的な考え方

- ・再生可能・未利用エネルギーを活用し、信州・伊那谷らしさを感じることができるエネルギー供給の仕組みづくりを行い、地域内経済循環を創りだすとともに、地域内モデルとしての普及も含め、長野県が取り組む RE100^(注)の思想を体现し、環境モデル都市飯田の取組を地域内外に感じてもらえる駅空間となるよう、駅周辺地区内のゼロエミッション化を目指します。
- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しい癒しの空間を創出しつつ、防災機能、維持管理に優れる持続可能な駅空間とします。

注）RE100：「Renewable Energy 100%」の略称。事業運営に必要なエネルギーを100%、再生可能エネルギーで賄うことを目標とするもの。

駅周辺地区における資源・エネルギー循環(イメージ)



①フットパス、舗装等

- ・地域の魅力ある資源と駅とを繋ぐフットパスを計画的に配置します。
- ・植栽、透水性・保水性舗装等による夏季の気温低減を図ります。



▲上小岩親水緑道



▲透水性舗装

出典：(株)ヴェルデン・ウッド

②レインガーデン(雨庭・雨花壇等)

- ・植栽する場所やフットパス側部等に窪地等を計画的に配置し、雨水流出の抑制、生物多様性、夏季における気温低下等を提供する空間とします。



▲京都太秦キャンパスの枯山水



▲レインガーデン

出典：ポर्टランド市資料

③地域木材の活用(キャノピー、分棟建物)

- ・地域内経済循環として、地域の木材を活用したキャノピーや省エネ仕様の分棟建物(魅力発信施設)を配置します。
- ・キャノピー上屋等には太陽光パネルを設置し、蓄電システム等による再生可能エネルギーの導入を図ります。



④水盤・井水等

- ・本地区が「竜西一貫水路」の受益地であることから水を活かした修景を施します。
- ・風景を写し込む水盤は、伊那谷の美しい四季を伝えると共に、夏は子どもたちが水と触れあえる空間とします。



⑤エネルギーセンター

- ・地域の森林資源(木質チップ又はペレット)等を活用したエネルギーの域産域消に取り組みます。
- ・エネルギーの仕組み等を体感できる展示スペース等を確保します。

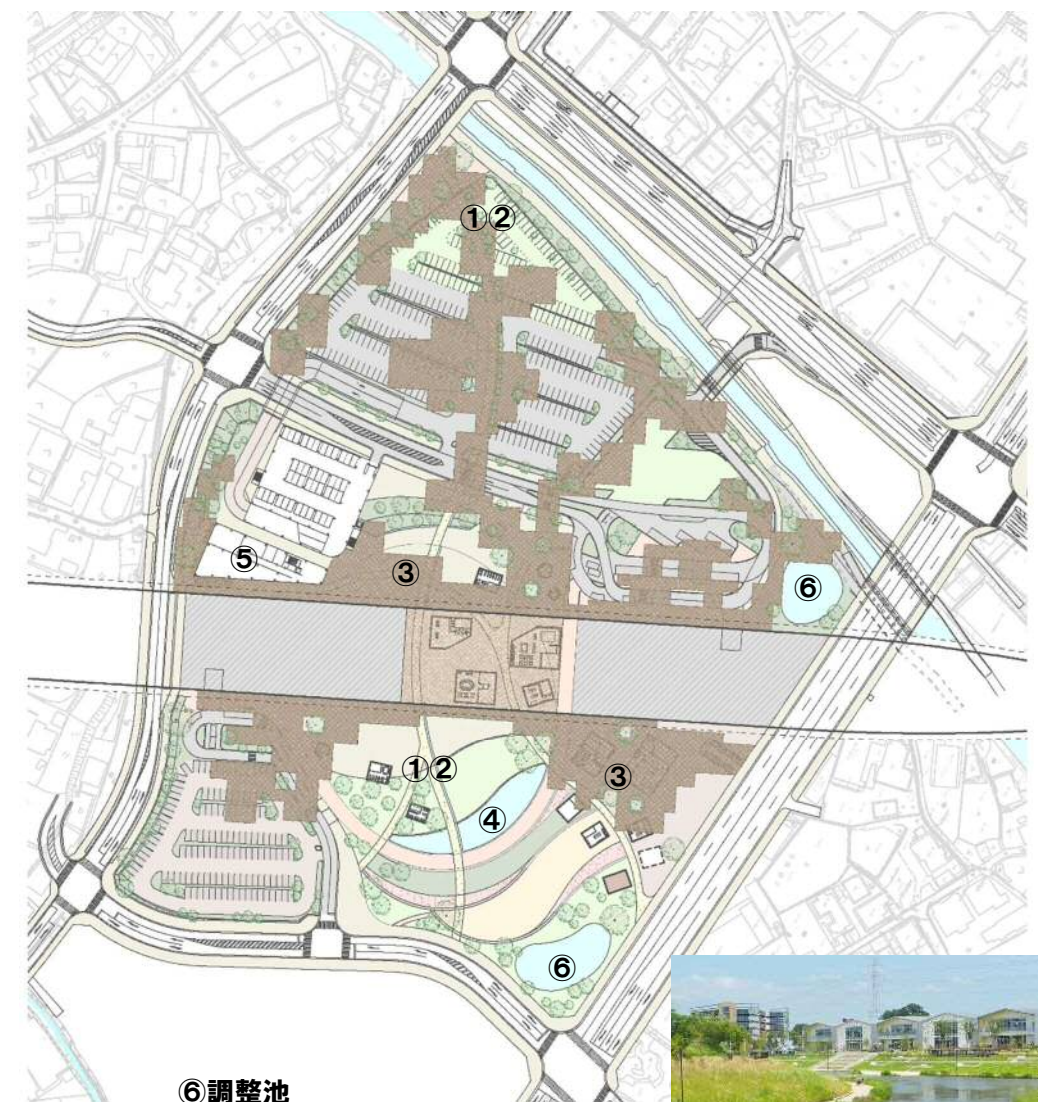


▲木質バイオマス発電



▲エネルギー利用の紹介

出典：とよた Ecoful Town HP



⑥調整池

- ・洪水調整の機能に加え、地域の多様な生物・植物が生息でき、季節の変化が感じることができる多機能な空間とします。

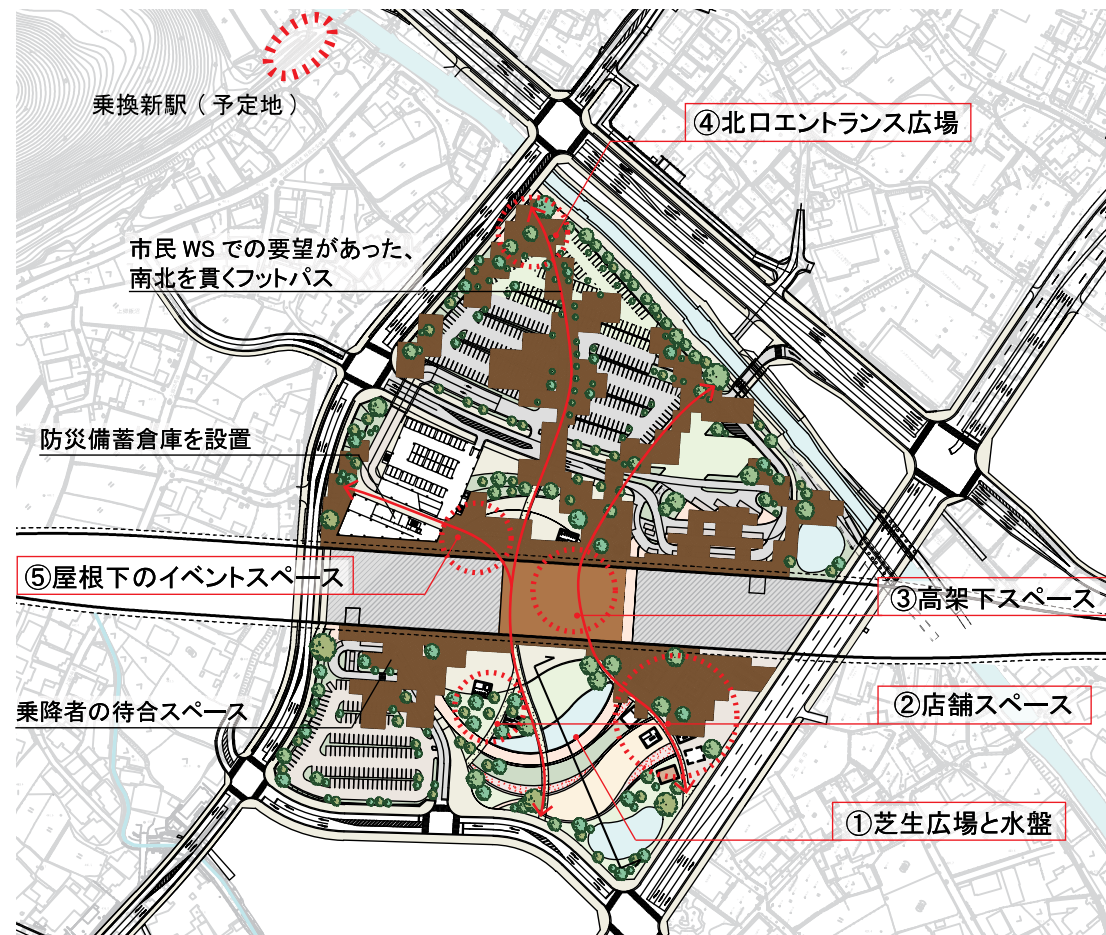


▲柏の葉 アケボノ池(千葉県柏市)

出典：itot HP

4. 地域と一体化した駅空間

「信州・伊那谷らしい自然や風景」を活かした空間イメージの具現化



市民WSでの意見

第3回までの市民WSで、全体のデザインの方向性については概ねの賛同を得ました。その上で、「良いと思うところ」「心配に思うところ」について意見をいただいたところ、シーンのイメージに関する心配に思うところがいくつか挙がりました。

【良いと思うところ】

- ・屋根はこの駅の特徴になると思う
- ・緑が多い
- ・人のための道が配置されている（歩くことが考えられている）
- ・小さな建物を分棟配置することで、周囲の景観に溶け込んでいる。
- ・もともとの地形が活かされている
- ・水に触れられる
- ・車の利用者にとっても便利そう

それを踏まえて第4回の市民WSでは、多くの方が心配されていた飯田らしさや、広場の使われ方について、パースを用いて共有し概ねの賛同を得ました。

【心配に思うところ】

- ・イベントがない時に過ごす人が少なく寂しい印象にならないか
- ・バリアフリーの配慮
- ・飯田らしさを感じられるか
- ・乗換え新駅とのつながり
- ・日常時イベント時の使われ方

■日常生活で便利に利用できる空間

①芝生広場と水盤

地形を生かした芝生広場と水盤。水盤は四季の山々を写し込み、夏には子供達の遊び場となります。芝生広場は大きなイベントも可能な緑のステージとなります。



③高架下スペース

待合施設やインフォメーション、ライブラリーなど天候に左右されず集まることの出来る「みんなの居場所」とします。



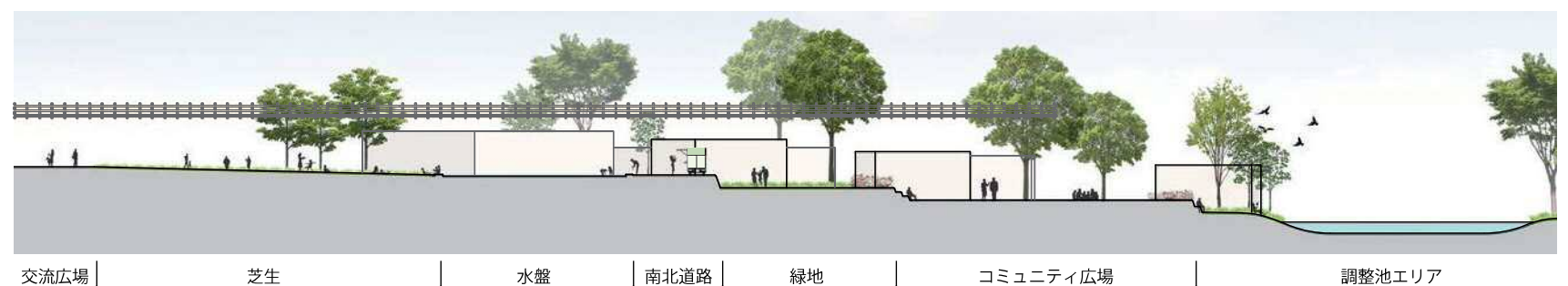
②店舗スペース

大屋根と一体となった店舗スペース。個々での建築の更新が可能な分棟配置とします。



④北口エントランス広場

地域の人が立ち寄り易い場所とし、来訪者にとっても、乗換え新駅との接続が分かりやすいゲート空間とします。



■イベントや行事など地域住民がコミュニティ活動の場としても活用できる空間

⑤屋根下のイベントスペース

日常的に日よけ、雨除けとなる屋根下空間は、イベント時にはさまざまな市民活動の場をつくります。



■暮らしの履歴を感じられる空間

地域の方々がそこに暮らしてきた歴史に敬意を払い、現存する建物（蔵など）や樹木などの一部を遺し、新しい建物・植栽と調和させて、地域の「暮らしの履歴」も感じられる空間とします。

災害時の対応について
立体駐車場付近に防災備蓄倉庫の設置を検討します。
また、キャノピーや高架下スペースは、一次避難所として機能します。



防災備蓄倉庫イメージ
出典：金沢市